

警察政策研究既刊目次

第9号(2005)

平成16年度の警察政策研究センターの主な活動

第1章 DNA型情報の活用

警察政策フォーラム

☆日英犯罪減少フォーラム「犯罪対策としてのDNA型情報の活用について～英国の制度を参考に」

＜基調講演Ⅰ＞DNA～捜査機会の拡大、証拠としての可能性、人権をめぐる議論

バッキンガム・チルテン大学教授 ジョン・グリーブ

＜翻訳・編集＞警察政策研究センター教授 河村 憲明

＜基調講演Ⅱ＞DNA型情報の刑事事件への利用と犯罪減少対策への応用の可能性

名古屋大学医学部教授 勝又 義直

＜パネルディスカッションの概要＞

警察捜査におけるDNA型鑑定の活用の実態と今後の展望

警察庁刑事局刑事企画課長 樋口 建史

犯罪対策としてのDNA型情報の活用について

読売新聞東京本社解説部 南 砂

DNAによる犯人識別の必要性和留意点

日本弁護士連合会犯罪被害者支援委員会副委員長

高井 康行

DNAデータベース化の必要性和犯罪状況

東京都立大学法学部長 前田 雅英

第2章 テロ対策

警察政策フォーラム

☆市民生活の自由と安全～各国のテロリズム対策法制の現状と課題

＜基調講演Ⅰ＞9・11事件とテロリズム対策立法

カリフォルニア大学バークレー校ロースクール教授 ジョン・ユー

＜翻訳・編集＞警察政策研究センター教授 河村 憲明

＜基調講演Ⅱ＞自由・安全・テロリズム～ドイツの法的現状

バイロイト大学教授 オリバー・レプシウス

＜翻訳・編集＞警察政策研究センター教授 河村 憲明

＜パネルディスカッションの概要＞

日本の現状についての報告

(財)公共政策調査会第一研究室長 板橋 功

アメリカにおけるテロ対策法制と憲法

慶應義塾大学大学院法務研究科教授 大沢 秀介

自由と安全 若干の憲法学的考察

慶應義塾大学大学院法務研究科教授 小山 剛

国際テロ情勢と警察の対応

警察庁警備局警備企画課長 五十嵐 邦雄

第3章 諸外国警察制度

警察政策研究会

☆韓国警察の現状と警察学の発展

<基調講演Ⅰ> 韓国警察学の歴史と発展

東國大学校行政大学院院長 李 黄雨

<編集> 警察政策研究センター教授 河村 憲明

<基調講演Ⅱ> 韓国警察の現状と課題

韓国国立警察大学助教授 表 蒼園

<編集> 警察政策研究センター教授 河村 憲明

第4章 来日外国人犯罪対策

警察政策フォーラム

☆日独犯罪減少対策フォーラム～来日外国人犯罪を考える

<基調講演Ⅰ> ドイツにおける外国人犯罪の現状とその対策

ドイツ連邦刑事警察庁副長官 ユルゲン・シュトック

<翻訳> 慶應義塾大学専任講師 フィリップ・オステン

<編集> 警察政策研究センター教授 河村 憲明

<基調講演Ⅱ> 少子高齢化社会日本の社会政策と刑事政策

慶應義塾大学名誉教授 宮澤 浩一

<パネルディスカッションの概要>

来日外国人犯罪の現状と対策について

警察庁国際捜査管理官 瀧澤 裕昭

入国管理局における不法滞在者対策

法務省入国管理局入国管理企画官 上原 巻善

外国人労働者受入れの基本方針と関係施策について

厚生労働省外国人雇用対策課長 小川 誠

来日外国人犯罪を考える～産業界からの提案

(社)日本経団連 紀陸 孝

鈴鹿市における在住外国人施策～国際交流・親善・友好から共生の時代へ

鈴鹿市長 川岸 光雄

来日外国人犯罪の変質と抑止

朝日新聞編集委員 緒方 健二

平成16年度の警察政策研究センターの活動概要一覧

既刊目次一覧